

第 3 章

計画の基本目標

第3章 計画の基本目標

計画改定の趣旨、本県の環境の現状と課題を踏まえ、この計画の基本目標（将来像）を示します。

1 基本目標の考え方

この計画は、中長期的な観点から、「かごしま未来創造ビジョン」に掲げられている、「豊かな自然との共生と地球環境の保全」を目指して、「自然と共生する地域社会づくり」、「地球環境を守る脱炭素社会づくり」、「再生可能エネルギーを活用した地域づくり」、「環境負荷が低減される循環型社会の形成」を基本目標（将来像）とします。

2 計画の期間

この計画の期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

この計画の期間中であっても、社会経済情勢や環境をめぐる状況の変化等に柔軟かつ適切に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

3 計画の基本目標（将来像）

(1) 自然と共生する地域社会づくり

生物多様性や環境文化についての理解が深まり、県民の参加による自然環境の保全・再生と、地域活性化につながる持続可能な利用の取組が行われています。

人的要因による新たな種の絶滅や、新たな侵略的外来種の意図的な進入の防止が図られています。

屋久島に続き、奄美大島及び徳之島が世界自然遺産に登録され、適正な保全・管理を図りながら、奄美群島全体での持続可能な地域づくりが推進されています。

人々が憩い親しむ水辺環境や干潟に加え、野鳥、イルカ、オオウナギなど多種多様な野生生物が棲む錦江湾や池田湖の水環境が良好に保全されています。

(2) 地球環境を守る脱炭素社会づくり

県民、事業者、行政が一体となり、二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減や気候変動の影響への適応など、脱炭素社会に向けた取組が積極的に進められています。

林業経営体をはじめ、森林ボランティア、企業等の多様な主体の連携の下、森林が適切に整備・保全されており、二酸化炭素を吸収するなどの多面的な機能が十分に発揮されています。

(3) 再生可能エネルギーを活用した地域づくり

自然環境に配慮しつつ、県内に存在する多様で豊かな資源を活用した再生可能エネルギーの導入が促進され、エネルギーの地産地消などが図られています。

(4) 環境負荷が低減される循環型社会の形成

従来の大量生産・大量廃棄型の社会の在り方やライフスタイルを見直し、資源やエネルギーの効率的な使用、限られた資源を繰り返し使うことのできる物質循環の流れの確保など、環境への負荷をできる限り低減した、循環型社会が形成されています。

産業廃棄物の排出抑制、減量化、リサイクルが更に促進されているとともに、産業廃棄物処理施設の整備及び産業廃棄物の適正処理が図られています。